

石田純一氏、オーストラリア映画「カウラ」を語る

趣旨：

追手門学院大学では開学初期の頃から、経済学部において「オーストラリア経済論」が開講されていた。最近のこの科目のテーマは「21世紀のオーストラリア経済」を考えると、そのことを通してさらに日本経済の構造改革の是非まで追及しようとしている。

このような時に、オーストラリアを理解する導入部分において、大手の新聞社も何度となく取り上げた「カウラ事件」を素材にして進めるのが10年来の通例としてきた。それは何故かという、このことを考えることが日本と対比させたオーストラリアを最も理解させ易いと思えるからである。とりわけ、最近では、約20年前に製作された豪映画の「カウラ」抜粋の鑑賞をすることになっている。それは、オーストラリアの社会、人間観、思想が臨場感をもって把握できるからである。そして、この映画には俳優として有名な石田純一氏が日本側主役として登場し熱演している。

そして数年間この方法を続けてくる中で、映画「カウラ」が訴えかけているものと豪・日両国のこれから先のあり方、また経済という分野をみても同調するものが多々あるということに気づかされた。

これから先は今回の石田氏招聘に繋がることになる。若き日の石田氏が情熱を持って演じた「カウラ」製作の事情を直接聞くことにより、この同調の深みがより増すのではないかと考え機会を待った。幸い今回、氏のスケジュールともかみ合うことになり4月28日に本学「オーストラリア経済論」の講師（講演）という形式で招聘の運びとなったものである。

（担当 森島 寛）

カウラ集団脱走事件

1944年8月5日、カウラにあった戦争捕虜収容所から旧日本人兵士約千人が集団で脱走を図り、警備兵の銃撃などにより二百三十人余りが死亡した事件。豪州側も四人の死者を出した。約三百人が一時脱走に成功したが、その後拘束された。